JRTU
JR連合

JUSTICE

自らを変える!! 明日を創る!! イースト イノベーション

ジェイアール・イーストユニオン
発行者　菅野一位
編集者　教宣部
〒105-0021
東京都港区東新橋 2-8-28
TEL(JR) 057-7333
TEL(NTT) 03-6452-9687
ホームページ検索
「ＪＲＥユニオン」

基本理念
1. 社員で考え、社員のための労働運動を目指す 企業内労働組合
2. 心とこころをつなぐ相互扶助活動と、次代につなぐ社会正義の実現を目指す

「ＪＲ産業に関わる緊急政策課題の解決にむけた決起集会」開催される！

ＪＲ連合及び「２１世紀の鉄道を考える議員フォーラム」は、11月25日、衆議院第２議員会館にて第16回総会とともに「ＪＲ産業に関わる緊急政策課題の解決にむけた決起集会」を開催した。決起集会では、国土交通省上原淳鉄道局長、交運労協住野敏彦議長、ＪＲ７社の経営幹部を来賓として招き、ＪＲ産業の持続的発展と働く仲間の生活と雇用を守るために、政労使が力を結集する決意を固め合った。

冒頭、フォーラムを代表して挨拶に立った榛葉賀津也会長（参・静岡・国民）は「今次集会はまさに政労使が一堂に会した画期的な場である。極めて厳しい局面に立たされているＪＲ産業が明るい将来を切り拓けるよう、政労使が力を合わせて取り組んでいこう！」と力強く挨拶した。続いてＪＲ連合荻山市朗会長は、組合員と家族に対し、コロナ禍においても指定公共機関として安全輸送の確保に尽力している点や、組合員と家族の積極的な協力で２２万筆超の要望実現を求める署名を集約した点に謝意を述べた上で、署名に記された、

①雇用助成金の延長
②公租公課の減免・猶予
③ＪＲ北海道、ＪＲ四国、ＪＲ貨物への当面の支援
とともに経営自立に向けた道筋の明確化

以上３点を改めて参加者全員に提起した。

来賓挨拶では、上原局長よりＪＲをはじめとする鉄道事業全般が直面する厳しい現状に触れた上で、「今般の状況に鑑み、所要の支援が図られるよう、鉄道局として精一杯取り組む」と決意の一端が示された。また、ＪＲ７社を代表し、今年度税制改正の幹事会社であるＪＲ四国岡田幸士取締役より、ＪＲ連合及び加盟各単組による企業運営を支える各種取り組みに対して謝意が示されるとともに、会社側としても労使連携を図りながら新しい時代を見据えて対応していく旨、意思表明がされた。

挨拶に立つＪＲ連合 荻山市朗会長

その後、ＪＲ７単組の代表者より、要求実現への想いを込めた口上とともに榛葉会長に署名用紙が手交された。ＪＲＥユニオンからは、国井道徳中央執行副委員長が出席し、「国民の足を守る、将来の鉄道を守る、これを唯一実現できるのはＪＲ連合であると確信し、ＪＲ東日本の中で唯一参加しているのがＪＲＥユニオンである。東日本の中では我々の組織は微力ではあるが、グループ企業・従業員を含め、７万５千名の生活をしっかりと守っていく。」との力強い決意を誓った。さらには職場を代表し、ＪＲ上場四社労組代表、ＪＲ二島・貨物労組代表、グループ労組代表から直接、働く者の切迫な声が届けられた。そして、本集会は尾形泰二郎事務局長からの課題提起、特別決議の採択を経て、ＺＯＯｍで視聴する多くの仲間も含め榛葉会長のがんばろう三唱で締めくくられた。

同フォーラムは総会で、新たに伊藤孝恵議員（参・愛知・国民）の加入が確認された。総勢64名となった同フォーラムとの連携を深め、さらなる政策実現に邁進する。

政労使が一致協力して、この難局のコロナ禍を乗り越えよう！

榛葉会長に署名を手交する国井副委員長

JRTU　ＪＲ連合 NEWS　ＪＲに乗るすべての仲間のＪＲ連合への結集を！！　2020年度　No. 50
２０２０年１１月２５日　日本鉄道労働組合連合会

～ＪＲ産業に関わる緊急政策課題の解決にむけた決起集会～
政労使が一致協力して取り組むことを確認！

ＪＲ連合及び「21 世紀の鉄道を考える議員フォーラム」は、11 月 25 日、衆議院第２議員会館にて第 16 回総会とともに「ＪＲ産業に関わる緊急政策課題の解決にむけた決起集会」を開催した。決起集会では、国土交通省上原淳鉄道局長、交運労協住野敏彦議長、ＪＲ７社の経営幹部を来賓として招き、ＪＲ産業の持続的発展と働く仲間の生活と雇用を守るために、政労使が力を結集する決意を固め合った。

冒頭、フォーラムを代表して挨拶に立った榛葉賀津也会長（参・静岡・国民）は「今次集会はまさに政労使が一堂に会した画期的な場である。極めて厳しい局面に立たされているＪＲ産業が明るい将来を切り拓けるよう、政労使が力を合わせて取り組んでいこう！」と力強く挨拶した。続いてＪＲ連合荻山市朗会長は、組合員と家族に対し、コロナ禍においても指定公共機関として安全輸送の確保に尽力している点や、組合員と家族の積極的な協力で 22 万筆超の要望実現を求める署名を集約した点に謝意を述べた上で、署名に記された①雇用助成金の延長、②公租公課の減免・猶予、③ＪＲ北海道、ＪＲ四国、ＪＲ貨物への当面の支援とともに経営自立に向けた道筋の明確化、以上３点を改めて参加者全員に提起した。

来賓挨拶では、上原局長よりＪＲをはじめとする鉄道事業全般が直面する厳しい現状に触れた上で、「今般の状況に鑑み、所要の支援が図られるよう、鉄道局として精一杯取り組む」と決意の一端が示された。また、ＪＲ７社を代表し、今年度税制改正の幹事会社であるＪＲ四国岡田幸士取締役より、ＪＲ連合及び加盟各単組による企業運営を支える各種取り組みに対して謝意が示されるとともに、会社側としても労使連携を図りながら新しい時代を見据えて対応していく旨意思表明がされた。

その後、ＪＲ７単組の代表者より、要求実現への想いを込めた口上とともに榛葉会長に署名用紙が手交され、ＪＲ上場四社労組代表、ＪＲ二島・貨物労組代表、グループ労組代表から直接、働く者の切迫な声が届けられた。そして、本集会は尾形泰二郎事務局長からの課題提起、特別決議の採択を経て、Zoom で視聴する多くの仲間も含め榛葉会長のがんばろう三唱で締めくくられた。

なお、同フォーラムは総会で、新たに伊藤孝恵議員（参・愛知・国民）の加入が確認された。総勢 64 名となった同フォーラムとの連携を深め、さらなる政策実現に邁進する。

「決起集会」の模様は
JR連合YouTubeチャンネルにて配信中！

荻山会長挨拶　署名の手交　現場からの声

ＪＲ連合 NEWS　ＪＲに集うすべての仲間のＪＲ連合への結結集を！！　2020年度　Ｎｏ．５８

２０２０年１２月７日　日本鉄道労働組合連合会

国土交通省・赤羽大臣への要請行動

署名に託した22万超の思いを国交大臣に届ける！

ＪＲ連合は、12月４日、「ＪＲ産業に関わる緊急政策課題の解決を求める署名」に込められた想いを行政に届ける要請行動の集大成として、国土交通省の赤羽一嘉国土交通大臣を訪問した。当日はＪＲ連合国会議員懇談会所属の榛葉賀津也会長（参・静岡）、泉健太副会長（衆・京都３区）、広田一幹事（衆・高知２区）とともに、ＪＲ連合からは荻山市朗会長、中村鉄平交通政策部長が参加した。署名は最終的に22万4,245筆に至り、ＪＲ産業で働く[illegible]の取り組み[illegible]

冒頭、議員[illegible]経緯を説明[illegible]社の経営状[illegible]く者もボー[illegible]コストカッ[illegible]超える雇用[illegible]貢献してい[illegible]若手・中堅[illegible]ＪＲ各社に[illegible]独まってお[illegible]は難しいと[illegible]欠かせない[illegible]できるので[illegible]

赤羽大臣[illegible]ルワーカーであるＪＲ関係労働者の皆様には感謝申し上げる。資金繰り支援については、要望いただいている納税猶予などしっかり取り組んでいる。ＪＲ二島・貨物については地域毎の課題もあり、私も現地で実際に乗車しながら、支援にむけても検討を進めている。新幹線ネットワークは地方創生や防災・減災対策としても重要だ」と述べた。

今回集約された多くの署名は、ＪＲ産業の危機的状況を乗り越え、さらなる発展につなげていくことに対する期待の声である。ＪＲ産業の経営と、働く者の雇用と生活をまもる取り組みに結実させるべく、反転攻勢へのうねりを創り出していく。

国土交通省・赤羽大臣への要請行動

署名の最終集約総数 22万4245筆！

ＪＲ連合は12月４日、「ＪＲ産業に関わる緊急政策課題の解決を求める署名」を要請行動の集大成として、国土交通省の赤羽一嘉国土交通大臣へ届けた。

ＪＲ連合国会議員懇談会所属の榛葉賀津也会長（参・静岡）、泉健太副会長（衆・京都３区）、広田一幹事（衆・高知２区）とともに、ＪＲ連合からは荻山市朗会長、中村鉄平交通政策部長が参加。署名は最終的に２２万４２４５筆となった。

冒頭、議員懇の榛葉会長より要請行動の経緯を説明した後、荻山会長からはＪＲ各社の経営状況や利用状況に触れた上で、ＪＲ産業の将来像にむけた取り組みが求められた。

赤羽大臣からは「コロナ禍の中で不安を抱えながら公共交通を支えている、エッセンシャルワーカーであるＪＲ関係労働者の皆様には感謝申し上げる。資金繰り支援については、要望いただいている納税猶予などしっかり取り組んでいる。ＪＲ二島・貨物については地域毎の課題もあり、私も現地で実際に乗車しながら、支援にむけても検討を進めている。新幹線ネットワークは地方創生や防災・減災対策としても重要だ」と述べられた。

ＪＲ産業で働く者、そしてすべての関係者の多大なる理解と協力を得ての、かつてない規模の要請行動となった。ＪＲ産業の危機的状況を乗り越え、さらなる発展につなげていくことに対する期待の声である。

ＪＲ産業の経営と、働く者の雇用と生活を守る取り組みに結実させるべく、うねりを創り出していこう。

署名活動にご協力いただいた多くの仲間の皆様に感謝申し上げます。

被災地海岸林再生プロジェクト

早期の復興を願い、仲間が一丸となって汗を流す！

ＪＲ連合は、11月14日、公益財団法人オイスカ被災地海岸林再生プロジェクトボランティア活動に参画した。ＪＲ連合からは中山耕介組織部長が、そしてＪＲＥユニオンからは仙台地方本部の組合員や未加入の若手社員など７名が参加した。

ＪＲ連合は、東日本大震災復興支援の取り組みの一つとして、公益財団法人オイスカと連携し「海岸林再生プロジェクト」に参画している。この取り組みは、東日本大震災による津波により、被災地域全域で広範囲にわたり海岸林が被害を受け、とりわけ宮城県はその大半を占めており、再生には６００万本以上のクロマツや広葉樹等の苗木が必要とされている。こうした状況を受け、オイスカは、東日本大震災によって被災した海岸林の再生に向けて、宮城県名取地区「海岸林再生プロジェクト１０ヵ年計画」を発表している。このプロジェクトは、海岸林の再生のみならず、播種から植栽まで３年程度を要する育苗に対して、地元被災者が収入を得ながら取り組めるよう、「雇用の創出」も行っている。ＪＲ連合も、本プロジェクトの趣旨に賛同し、募金活動に協力することとし、具体的には、「連合愛のカンパ」募集時の目的に本プロジェクト支援を加え、「カンパ」の一部を拠出しており、２０１５年からは、現地にボランティアチームを派遣している。

海岸林の再生に向けた活動を展開（宮城県名取地区）

モニタリング や清掃・溝切りなどの作業を実施
ボランティア活動で汗を流す仲間たち

当日は快晴に恵まれ、午前中は松の樹高を測定するモニタリング調査、松の根に溜まった雨水を外に吐き出す「溝切り」作りに専念。溝切りは２０１６年植栽地の水はけの悪い箇所で行い、初めての方・久しぶりの方それぞれいたが、参加者全員が真剣に取り組んだこと、晴天だったこともあり、汗だくになるまで作業した。

昼食は、ボランティア参加者の手作り芋煮と牡蠣鍋で体を温めた。午後は近くの畑でサツマイモ掘り、海岸林のゴミ拾いと続き、朝から晩まで体力を使うハードなボランティア活動となった。

参加者からは「体力的に疲れたが、若手の参加者もいたおかげで、気持ちは充実した一日を過ごせた。」「個人ではできない貴重な経験ができた。また来年も参加したい。」など好評をいただいた。

ＪＲ連合とＪＲＥユニオンは、被災地へのボランティア活動派遣やカンパ活動を断続的に行う！